

フラグミペディウム コバチーの開花

島田有紀子・磯部実

2014年11月25日にフラグミペディウム コバチー (*Phragmipedium kovachii*) が開花した。

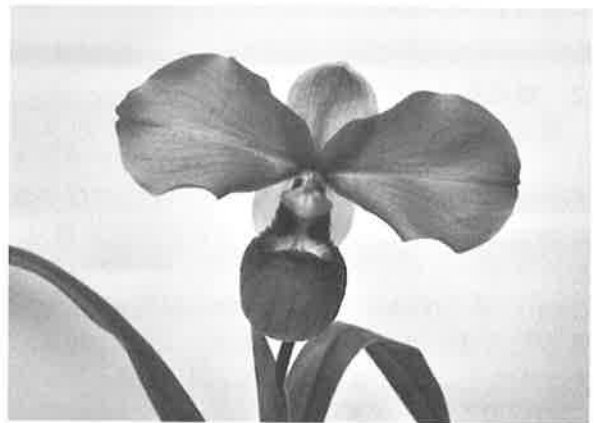
本種は、2002年にペルー北部の海拔1,600～1,950mの密林で発見された原種で、他のフラグミペディウム属の原種に比べて花が格段に大きく、「世紀の大発見」と称賛されたランである。

当園では2011年2月に、ペルーフローラ (Peruflora、ペルー) から正式な手続きを経て2株を導入し、本園の冷房温室で栽培した。

葉は革質で、先の尖る長楕円形、濃緑色。開花時には6枚(他に2枚を落葉)を生じた。最大葉は幅約4.5cm、長さ約40cmであった。開花

約1か月前に、展開する葉の中心から、赤紫色の短毛の生えた花茎が直立に伸び、開花時には約24cmになった。花は平開し、自然開張幅は約18cm。萼片は薄茶色地に赤褐色の脈が入り、背萼片は卵形で約4.0cm×5.5cm(幅×長さ、以下同じ)、側萼片は合生して下方につき、約4.8cm×5.0cm。花弁は広卵形で、約7.5cm×9.0cm、桃紫色、よく開張する。唇弁の袋は丸く、縁は内曲し、約4.7cm×7.7cm、濃赤紫色、表面に短毛が生えてビロード状を呈し、内曲した内側周辺は黄色。仮雄蕊は広卵形、白～薄桃色で、周縁は濃赤紫色。

開花初日からフクシア温室の野生ランコーナーで展示し、広報活動したところ、マスコミ1社で報道された。なお、開花は12月22日に落花して終了し、開花期間は28日間であった。



フラグミペディウム コバチー